

栗

池松 孝子

私のウォーキングコースの途中にかなり広い栗畑がある。栗は雌雄同株で雌雄異花だ。六月になると、栗の雄花が花をつける。ひとつひとつの花は小さいのだがクリーム色の花穂が長い束になって垂れて咲く。見た目はともかく、その雄花の匂いと言ったらない。青臭いというより生臭い独特のものだ。栗畑に近づくとその臭さに私はもう耐えられなくなる。仕方なくその時期はコースを変更する。栗は虫媒花でその強い匂いで蠅、蜂などの昆虫を呼ぶのだ。秋になると黄緑色のいがに包まれた実がゆっくりに茶色に熟していく。

栗は古くから食料としてまた、建築材としても重要なものであった。それは縄文時代初期からである。山栗やくるみなどの森が分布していた地域と遺跡が一致することからも分かる。稲作以前のからの食糧源としていかに重要であったかを示すものである。長野県上松町の森裏遺跡の竪穴式住居、静岡県沼津市の遺跡などからも出土している。

栗と言えば、長野県小布施町だ。最近注目されているのが上伊那郡飯島町の伊那栗で「北の小布施町に南の飯島町」と大人気だという。人口一万の、長野県で最も面積の小さな小布施町に、栗を目当てに年間百二十万の観光客が訪れるという。小布施栗は「徳川三大果」として将軍家の厳しい管理下に置かれていた。それらは、紀州みかん、甲州ぶどう、そして小布施栗である。今でいう「ブランド栗」は小布施栗だったのだ。

ここしばらく栗を求めて小布施へと言う気にもなれずネット通販はどうかと調べてみた。小布施の栗は生産量が少ない。日照時間が長くて寒暖差があることなどで小布施の栗は甘さと風味は極上とある。一般には流通しない貴重品とも。さらに伊勢神宮外宮 豊受大神宮に奉納された。ここまでくればまずは「価格」をと焦る。特大3L、1kg、9300円とあった。見ると十一月四日出荷分「売り切れ」だ。妙に安心した。

月よみの光をまちてかへりませ 山路は栗のいがの多きに

良寛